滋賀・大津の SDGs 取り組み報告

～「みんなで、大津」情報掲載１２４事例の分析から～

SDGs を広めるサイト「みんなで、大津」に県民・市民向けに情報を掲載した実例について、SDGs 目標１７の視点から分析し、滋賀・大津において、どのような取り組みが実施されてきたか、その傾向と関心度合について報告する。
さらに日本や世界における SDGs 取り組みの現状と比較して滋賀・大津の特徴を述べる。

◎今回の報告の対象とした情報掲載期間：２０２２年２月１日～２０２３年１２月２８日
◎情報掲載数：１２４件
◎１件あたり SDGs 目標の数：原則１件につき最大３目標としたが、もう少し数を増やしてほしいという要望があり３つを越えて目標との紐づけを行うことにしたので、最近の掲載事例においては、４ないし５つの例もある。

【Ⅰ】【SDGs 目標別の滋賀・大津での取り組み状況】

● 「みんなで、大津」掲載取組み目標の数（多い順）

目標	件数	日本の達成度国際評価
目標１１「住み続けられるまちづくりを」	７０件	「課題が残る」
目標　４「質の高い教育をみんなに」	５２	「達成済み」
目標１７「パートナーシップで目標を達成しよう」	５０	「深刻な課題がある」
目標１３「気候変動に具体的な対策を」	４０	「深刻な課題がある」
目標１５「陸の豊かさも守ろう」	２６	「深刻な課題がある」
目標１２「つくる責任つかう責任」	２５	「深刻な課題がある」
目標１４「海の豊かさを守ろう」	２０	「深刻な課題がある」
目標　３「すべての人に健康と福祉を」	２０	「課題が残る」
目標　８「働きがいも経済成長も」	１８	「課題が残る」
目標　９「産業と技術革新の基盤をつくろう」	１２	「達成済み」
目標１０「人や国の不平等をなくそう」	１１	「重要な課題がある」
目標　５「ジェンダー平等を実現しよう」	１０	「深刻な課題がある」
目標１６「平和と公正をすべての人に」	9	「達成済み」
目標　７「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」	9	「重要な課題がある」
目標　１「貧困をなくそう」	3	「課題が残る」
目標　２「飢餓をゼロに」	3	「重要な課題がある」
目標　６「安全な水とトイレを世界中に」	1	「課題が残る」
計	３７９	

● 上記結果への所感と掲載事例

（1）目標１１「住み続けられるまちづくりを」の掲載数が一番多いのは「みんなで、大津」の目的が地域の暮らしに役立つ情報をお伝えすることにあるので当然といえます。提案企画の半分以上がこの目標の達成を目指していることは地域に暮らす者として喜ばしいといえるでしょう。

【掲載事例】・「ひろがる、つながる、ながれをつくる」地域の課題解決に取り組む NPO・市民活動を支援（淡海ネットワークセンター）

・５０年後の滋賀への手紙募集～県政２００周年へ（滋賀県企画調整課）

・大津市カーボンゼロシティ宣言～大津市環境基本計画第３次スタート（大津市環境政策課）

・おおつエコフェスタ２０２２～涼しいところでエコを学ぼう～開催（２０２３も同じ）（大津市地球温暖化防止活動推進センター）

・保護司による息の長い活動～再犯防止に向けた滋賀県の取り組み～（滋賀県更生保護ネットワークセンター）

・[協賛会員募集中]滋賀で再犯防止を進めよう～息の長い支援にご協力を～（更生保護法人 滋賀県更生保護事業協会）

・「作品募集（第１６回）」青春２１文字のメッセージ～ことばが光ると　おもいが届く～（第１７回も）（電車と青春２１文字プロジェクト）

・ユネスコ無形文化遺産「風流踊」登録記念講演会を開催します（滋賀県文化財保護課）

・『源氏物語』の世界へ～講談と琵琶で描く物語～を開催します（大津市市民部文化振興課）

（2）約半分の企画が目標１７「パートナーシップで目標を達成しよう」を選んでいます。もともとすべての SDGs 目標はステークホルダーの協働によって達成できるものであり、すべての取り組みが成果をあげるために目標１７を選ぶことは自然ですが、半数にとどまったのは選ぶ SDGs 目標数を限った（原則３つ）結果ともいえます。

しかし、日本の達成度について目標１７の国際評価は最低のランクで、日本全体ではセクター間の協働がうまく行われていないということになります。

【掲載事例】・「びわ湖の日」協力団体・関連企画・イベントを募集します！（滋賀県環境政策課）

・滋賀県政１５０周年記念事業パートナーを募集します～滋賀の魅力を発信しよう～（滋賀県企画調整課）

・「失敗から学ぶ」協働の進め方～課題解決型協働推進セミナー開催（淡海ネットワークセンター）
・大津市大河ドラマ「光る君へ」活用推進協議会ロゴマーク・イラストの使用のお勧め（同 活用推進協議会）
・市民活動フォーラム「リアルな交流しませんか？」（淡海ネットワークセンター）
・２０２３年度「未来ファンドおうみ助成事業」を募集します（２０２４年度も同じ）（淡海ネットワークセンター）
・2023 第４回研究会「災害支援で活かす地域の連携と協働」（災害支援市民ネットワークしが）
・大津市が参加「SDGs 京滋プロジェクト」始動（大津市企画調整課）
・NPO 法２５周年記念フォーラム」&「市民セクター全国会議 2023」開催のお知らせ（特定非営利活動法人日本 NPO センター）

（３）目標４「質の高い教育をみんなに」をあげた企画提案が多いのは、啓発的な企画が多いことを物語っているといえます。国際達成度評価でも日本はこの目標について高い評価を得ています（４段階評価の１番上)。
また近年社会的な課題となっている不登校児童の増加や発達障害を抱える児童への対応についても、課題解決に取り組む活動が広がっています。

【掲載事例】・おおつ市民環境塾を開講（２０２２前期、２０２３前期、２０２３後期）（大津市地球温暖化防止活動推進センター）
・滋賀県レイカデイア大学学生募集～シニアの学び舎（滋賀県社会福祉協議会）
・「社会的インパクトセミナー」開催（淡海ネットワークセンター）
・「おうみ未来塾１７期生」募集～地域プロデューサーを育てます(淡海ネットワークセンター)
・食農共有セミナー開催～子どもに・未来に・安全な食を～(NPO 法人 HCC グループ)
・学校に行かない選択をした子ども達に自信を取り戻し生きていく力を蓄える居場所をつくる～オルタナティブスクール「トライアンフ」（一般社団法人異才ネットワーク）
・滋賀県フリースクール等連絡協議会が発足しました～不登校の児童生徒が健やかに育つよう支援します（滋賀県フリースクール等連絡協議会）
・ご存知ですか「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクトを紹

介します（滋賀県文化芸術振興課）
・古都おおつ観光ボランティアガイド募集（古都おおつ観光ボランティアガイドの会）
・[探訪]天智天皇ゆかりの近江大津宮跡を訪ね渡来人の郷を巡る（おやじのたまり場～セカンドライフサロン）
・子ども SDGs ワークショップ （全６回）～私と自然とのつながり、世界とのつながりを学ぼう！～開催(NPO 法人 HCC グループ)
・カードゲームから始める SDGs と脱炭素社会のための連続講座（全３回）を開催します（びわこ東北部地域連携協議会・滋賀県立大学）
・市民活動フォーラム 2023～続く活動と組織の秘訣～を開催します（淡海ネットワークセンター）
・NPO 法人・小規模事業者のための「インボイス＆会計の基礎講座」のお知らせ（大津市市民活動センター）

（４）目標１３・１５・１４が上位にあるのは、気候変動の緩和や適応に敏感であり、生態系の保全（単に保全にとどまらずポジティブネイチャーも含め）に関心の深い滋賀県民の特徴がよく表れているといえます。
しかし、この点についても日本に対する国際評価は最低のランクで、外から見た場合日本は課題が多いということなので、もう一度足元を見て反省すべき点はないか考えてみる必要があるようです。例えば自然エネルギーの活用、プラスチックごみ問題など。

【掲載事例】
・県民向けセミナー「滋賀県における CO2 ネットゼロ社会づくりについて」Zoom 参加募集(滋賀県 CO２ネットゼロ推進課)
・「滋賀で実現する再エネ１００％」～これからのエネルギーと私たちの暮らし～（NPO 法人 HCC グループ）
・「地球温暖化 NOW！～未来を拓く脱炭素社会を目指して～開催（大津市地球温暖化防止活動推進センター）
・実証実験・ゼロカーボンシテイを目指して「おおつエコライフチャレンジ」～あなたも挑戦しませんか～（大津市環境政策課）
・「ネットゼロフォーラムしが」開催（令和４年第２回、令和５年第１回。滋賀県 CO２ネットゼロ推進課）
・ごみ減量と資源再利用推進大会（第２０回）開催（大津市廃棄物減量推進課）
・「関西脱炭素フォーラム２０２３」開催（関西広域連合）
・大津市プラスチックごみ削減勉強会～話合おうプラごみの未

来について～（など数回開催）（大津市プラスチックごみ削減勉強会）
- ・フォーラム「サステナブルな未来への転換～気候危機を超えて～」開催（しがローカル SDGs 研究会）
- ・令和５年１０月１日から「しがプラスチックチャレンジプロジェクト」を実施！（滋賀県循環社会推進課）
- ・川にもポイ捨てプラごみがいっぱい～もっと川を大切にしたい（河川管理パートナーの会）
- ・「賛同者募集」マザーレイクゴールズ(MLG s)で「琵琶湖」を切り口に持続可能な滋賀を目指そう（マザーレイクゴールズ推進委員会）
- ・「MLGs みんなの BIWAKO 会議/COP2」を開催します（マザーレイクゴールズ推進委員会）
- ・講演「ポイ捨て・不法投棄ゼロを目指す新大宮川の取り組み」とゴミ拾い体験（新大宮川を美しくする会）
- ・滋賀県「生物多様性についての意見交換会」開催（滋賀県自然環境保全課）
- ・「しが生物多様性取組認証制度」認証希望者募集～取組を見える化しよう！～（滋賀県自然環境保全課）
- ・大津こども環境探偵団の団員とエコリーダーを募集します（大津市環境政策課）
- ・SGN 生物多様性と環境・CSR 研究会バスツアー＆セミナーのご案内（滋賀グリーン活動ネットワーク（SGN））
- ・「棚田 de 古代米」メンバー募集（棚田・里山・古代米・鮒プロジェクト）
- ・根本美緒さん講演会「地球温暖化問題と私たちの暮らし」開催のお知らせ（滋賀県地球温暖化防止活動推進センター）
- ・「第２回ごみ問題を考えるセミナー」を開催します（ごみ問題を考える草津市民会議）
- ・「おおつエコライフチャレンジウインター」が始まりました。未来の地球を守るためにエコなライフスタイルについて考えましょう（大津市地球温暖化防止活動推進センター）

（５）目標１２「つくる責任つかう責任」は、すべての人が消費者であり、かつ生産者でもあることが多いので、これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄と決別して、一人ひとりの行動が大切であるという自覚を明確に示したもので、SDGs 目標の中でも重要な意味を持つといえます。この目標についても日本の

現状に対する国際評価は最低ランクです。

【掲載事例】・「今求められるパラダイムシフト『サーキュラーエコノミー』～廃棄物を減らす、無くす、資源にするものづくり～開催（滋賀グリーン活動ネットワーク）

・[公募型プロポーザル]「市有施設照明設備 LED 化検討業務」のプロポーザルの参加者を公募します（大津市環境政策課）

・「パソコンの無料回収と障がい者雇用」で社会貢献（リネットジャパンリサイクル株式会社）

（６）ここまで見てくると「みんなで、大津」に掲載された企画について県民・市民の関心が高い目標は、国際的にみて日本の達成度は低く課題を残しているということに気がつきます。見方を変えると日本の達成度が低いということは滋賀・大津でも同じことで、「達成度が低いのは滋賀・大津でも同じ」なのかという疑問が出てきます。この点については後に再考します。

（７）目標３「すべての人に健康と福祉を」は、「世界のだれ一人として取り残さず、すべての人に」という SDGs の最終的な達成目標からいうとハードルが高い目標ですが、地域においても高齢者や生活困窮者などいわゆる生活弱者といわれる人たちへの思いが大切であることを改めて認識する必要性を指摘しています。この目標を目指す企画提案がもっと増えることが期待されます。

【掲載事例】・「おおつ介護フェスタ 2023～優しさヒカル 笑顔ヒカル ケア光ル」を開催します（おおつ介護フェスタ実行委員会）

・介護のデジタル化を考えよう～高齢者社会で安心して暮らせる介護とは（情報収集）（しがの介護デジタル化を考える会）

・「２０２３おおつ健康フェステイバル」を開催します（大津市健康推進課）

・10 月 28 日「交通安全フェア」を開催します!（大津市市民部自治協働課）

・令和５年度大津市生涯学習推進フォーラム「人生１００年時代の生涯学習について～生きづらさを抱える子どもへの関りから考える～」開催（大津市生涯学習推進会議）

（８）次の目標８「働きがいも経済成長も」と９「産業の技術革新の基盤をつくろう」は、社会・経済・環境という三つの面からいうと経済に属する目標といえます。経済成長一辺倒ではなく「働きがい」をセットしていることは大切です。そして経済成長のためには新しい産業の振興と技術革新が不可欠であることは多言を要しません。また、これらの目標は地域創生に深く関わっています。

【掲載事例】・未来世代と考える「持続可能性×仕事～CO２ネットゼロ時

代の事業経営のあり方とは（滋賀グリーン活動ネットワーク）
・[亀岡市情報]食と農のみらい～亀岡の有機農業から考える～フォーラム開催（亀岡市農林振興課）
・「J-クレジット（びわ湖カーボンクレジット）創出・活用支援セミナー開催（滋賀県CO２ネットゼロ推進課）
・「琵琶湖システム」が世界農業遺産に認定されました～人と自然にやさしい持続可能な農水産林業～（滋賀県農政課）
・滋賀県デジタル地域通貨「ビワコ」サービス開始～あげる、もらう、スマホで地域につながる（滋賀県総務部市町振興課）
・「びわ湖カーボンクレジット登録制度」の新設・募集開始～県HPで利用者を「見える化」および創出・活用支援（滋賀県CO２ネットゼロ推進課）
・電子割引券「おおつ割」キャンペーンを実施します～対象店舗で使えます（大津市商工労働政策課）
・「新・しが割キャンペーン（第３弾しが割）実施のお知らせ～事前に抽選申込みが必要です（滋賀県商工政策課）
・滋賀県SDGs事業「こどなBASE」キックオフトークセッション開催（滋賀県企画調整課）
・「社会的インパクト評価ってどう使う？～休眠預金等活用の実践事例から」セミナー開催（淡海ネットワークセンター）

（９）目標１０「人や国の不平等をなくそう」と１６「平和と公正をすべての人に」は、現実の国際社会において最も達成困難な課題です。また「みんなで、大津」に掲載する企画提案も難しいと思いますが、大津市市民活動センターがこのテーマを意欲的に取りあげておられることに敬意を表したいと思います。また少し観点は異なりますが、ピッポファミリークラブの取り組みにも興味があります。

【提案事例】・おおつSDGs子ども絵画コンクール作品募集～テーマ：ケンカや争いをなくすために何ができるだろう（大津市市民活動センター）
・大津SDGs協働支援チャリティプロジェクト2023「荒野に希望の灯をともす」上映会・「武力で平和は守れない」講演フォーラム（大津市市民活動センター）
・英語も多言語も話せるようになった話～世界のことばに親しもう～（言語交流研究所ピッポファミリークラブ）
・オンライン体験会「１時間でわかるピッポ」を開催します（言語交流研究所ピッポファミリークラブ）

・オンライン講演会〜これからの多様化する世界を生きる〜（言語交流研究所ピッポファミリークラブ）
・びわ湖チャリテイウオーク＆クルーズ開催のお知らせ（大津市市民活動センター）

（10）次の目標５「ジェンダー平等を実現しよう」について、わが国はその取り組みが遅れているという指摘を国際社会から受け続けています。男女共同参画が提唱されて既に長年になりますが、課題解決のハードルは決して低くないようです。しかし政府セクター・企業セクターに比べると市民セクターでは女性の活躍は活発で女性が占めている役割は小さくありません。遅れている他の２つのセクターでも早急な改善が望まれます。

【提案事例】・[SDGs フォーラム]「各国のジェンダー平等に向けて。NGO の今」を開催します（大津市市民活動センター）
・[おおつパパスクール]「はじめよう！我が家の家事シェア」開催（大津市人権・男女共同参画課）
・「第２０回男女共同参画をすすめるフォーラム」を開催します（男女共同参画をすすめる市民フォーラム実行委員会）
・大津市公式サイト“Smile League”で女性の活躍を支援〜男女共同参画を推進しよう〜（大津市人権・男女共同参画課）
・「男らしさと生きづらさ 自分らしく生きるためのヒント」を開催します（大津市男女共同参画センター）

（11）目標７の「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」について、最近の国際紛争は世界のエネルギー秩序を混乱に陥れ、エネルギー自給率の低い日本などの国々の経済的負担を増大させています。エネルギー資源の分布は世界多様で、地球の起源による地政学上の問題なので、政治が不安定化すると困る国が出現することはこれまでの歴史でも起こってきたことです。
将来、エネルギーをみんなに、そしてクリーンに、というのであれば、例えばいま電気のない発展途上の国々に簡易な太陽光発電を普及させたり、「水素エネルギー」のように地産地消で、分散可能で、かつ持続可能なエネルギー源の開発にもっと力を注ぐべきでしょう。
脱炭素という観点から COP28 でも原発を増やすという政策がとられるような流れですが、忘れてならないことは、原発はクリーンではない、核のごみという危険なごみを長年にわたって地球に残すということです。目先の脱炭素やエネルギーの確保に目を奪われて、脱炭素と並んで大切なゼロエミッションを忘れてはなりません。

【掲載事例】・エネルギーのグリーン購入を考える〜自治体・事業者・個人が今できる事〜（滋賀グリーン活動ネットワーク）

・「関西水素サプライチェーン構想実現プラットフォーム」水素エネルギーセミナー開催（関西広域連合エネルギー検討会）
・水素社会をつくろう「水素情報を提供ください」（水素発電推進室）
・「しが水素エネルギー推進セミナー」を開催します！（滋賀県 CO2 ネットゼロ推進課）

（12）目標１「貧困をなくそう」目標２の「飢餓をゼロに」は、豊かだといわれる日本においても決して無縁なテーマではありません。日本の相対的貧困率は 2021 年 15.4%で、欧米に比べ高い。殊に、ひとり親世帯では高い率になっており、経済格差が拡大しています。多くの日本人は日々の食事に不自由を感じることは少ないですが、昨今の物価高騰に伴う食品の価格高騰は生活を直撃しています。心配なことはエネルギー同様自給率が低い日本の食糧事情は、国際紛争などが原因で食糧輸入に障害が起こった場合、飢餓のリスクが高まることです。食糧自給率が低いことはかねて指摘されておりながら改善されていません。世界の天候不順も日本の食糧問題に影響する可能性があります。早急な対応策が期待されています。「みんなで、大津」でもこの方面の課題に注目していきたいと思います。

【掲載事例】・[継続・再掲載]フードロスをなくしましょう～フードドライブに参加を～（NPO 法人 CASN）

（13）最後は目標６「安全な水とトイレを世界中に」ですが、幸せなことに日本は恵まれています。天然資源の中で清らかな水が豊富なことは日本が自慢できることです。トイレの清潔度も整っています。ただし災害時にはまだまだ困難が待ち構えています。災害対応は気を緩めることなく準備が大切です。また水問題に悩む国々のために日本には貢献できることがあります。琵琶湖を抱える滋賀には国際的な役割が期待されているかも知れません。

ここで、日本の SDGs 目標達成度について世界はどう見ているか、国際評価について見ておきたいと思います。

【Ⅱ】【日本の SDGs 目標達成度について国際評価は？】

国連の広報機関が評価した２０２２年度の日本の SDG2 目標達成度は次のようになっている。世界における日本の達成度順位は第１９位で、前年（２０２１年）より順位をひとつ下げた。１７の目標に関しては次のとおりである。

（報告書では評価基準を４段階に分けている。すなわち、「達成済み」「課題が残る」「重要な課題がある」「深刻な課題がある」の４段階である）

まず、「達成済み」は次の３つ。

・目標 4「質の高い教育をみんなに」
・目標 9「産業と技術革新の基盤をつくろう」
・目標 16「平和と公正をすべての人に」

次に、「課題が残る」は次の５つ。

・目標 1「貧困をなくそう」
・目標 3「すべての人に健康と福祉を」
・目標 6「安全な水とトイレを世界中に」
・目標 8「働きがいも経済成長も」
・目標 11「住み続けられるまちづくりを」

そして、「重要な課題がある」は次の３つ。

・目標 2「飢餓をゼロに」
・目標 7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」
・目標 10「人や国の不平等をなくそう」

最後に「深刻な課題がある」は次の６つとなっている。

・目標 5「ジェンダー平等を実現しよう」
・目標 12「つくる責任つかう責任」
・目標 13「気候変動に具体的な対策を」
・目標 14「海の豊かさを守ろう」
・目標 15「陸の豊かさも守ろう」
・目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」

目標ごとの評価を前年（2021 年）と比較すると目標 12 の「つくる責任つかう責任」が「重要な課題がある」から「深刻な課題がある」に 1 ランク引き下げられた。

それ以外は前年（2021 年）と同じだった。

ここで、日本に対する国際評価と滋賀・大津での取り組みを比較して考察してみたいと思う。

【Ⅲ】【日本に対する国際評価と滋賀・大津での取り組みの比較】

日本に対する国際評価と「みんなで、大津」に掲載された滋賀・大津での取り組みを比較し考察を加えてみたい。なにがいえるか、なにが見えるか？

まず目につくのが、【Ｉ】において、目標１７から目標１４まで（１７・１３・１５・１２・１４）の５つについて、国際評価では「深刻な課題がある」という４段階評価の最低の評価を受けているが、一方、「みんなで、大津」に企画提案された数をみると、滋賀・大津ではこれらの目標に関する取り組みが盛んなことである。これらの目標は地球温暖化―気候変動に関するもの、生物多様性の保全に関する

もので、地域住民の関心が高い分野である。
滋賀・大津で取り組みが多い目標について、次の２つのことがいえる。すなわち、①　地域で課題が残されており解決へのニーズが高いので企画提案も多い。②企画提案が多く地域での取り組みが盛んで、目標達成の効果が表れている。では滋賀・大津の状況はいずれであろうか。①の状況であれば、国際評価を容認したことになる。②の場合であれば国際評価とは逆に、滋賀・大津では琵琶湖があるという地域の特性ゆえに、これらの目標に対する対応が進んでおり成果をあげているということになる。いずれであるかを判断する材料として、ひとつのアンケート調査の結果を見てみたい。

大津SDGs実行委員会では国連でSDGsが採択されて５年目になる２０２０年度について「あなたは SDGs の達成度をどう評価しますか」というアンケート調査を実施し、８０名の市民・県民から回答を得た。その集計結果を「みんなで、大津」に掲載している。
このアンケートでは【Ⅰ】の目標１７から１４の５つについて、１４が平均点に達していないが、他の４目標については平均以上の評価結果を得ている。つまり滋賀・大津ではこれらの５目標について比較的高い達成度評価を得ており、日本全体に対する国際評価とは逆の結果となっている。
滋賀・大津は琵琶湖を抱える地域であることから地球温暖化防止や生物多様性の保全に関して地域住民の関心は高く、この目標を達成する活動が盛んで、これまでにも成果をあげてきた、といえる。従って、滋賀・大津から見るとこれらの目標の国際評価の低さには「なぜ」という疑問がわく。もっとも滋賀・大津においても「課題なし」というわけではないが、全国的には「深刻な課題がある」と考えるべきなのかも知れない。
もうひとつ国際評価で「深刻な課題がある」とされているのが目標５「ジェンダー平等を実現しよう」である。この目標は男女共同参画に関わるもので、日本でも課題となってから久しい。しかし社会全体としての改善の歩みは遅々としている。女性の政治参加、賃金における男女格差など滋賀・大津だけで改善できる問題ではなく、国全体としての課題が大きい。一方、子育てにおける父親の役割の向上、女性の新規起業支援など地域でも実践可能な取り組みは滋賀・大津でも進められている。しかし全体としてまだまだ課題は残されている。

次に国際評価で「重要な課題がある」とされているのは目標の１０、７、２である。目標２の飢餓は日本では重大な課題として表面化していないが、家庭の事情でひもじい思いをしている子ども達がいる。学校の給食が一日のうちで一番のご馳走という声もある。食生活は健康・働く意欲の基本であるから若い世代の食事不足

は日本社会から排除しなければならない。子ども食堂やフードバンクのような活動を支援して、多くの子ども達に日々の活力を与える地道な取り組みが大切である。「みんなで、大津」でもこうした取り組みをもっと掲載していきたいと思う。

目標１０の不平等の問題は多方面にわたり、かつ解決が容易ではない課題を含んでいる。多くは国の政策の改善を要する問題であるから地方レベルでは対応は難しい。地方でできることは在住の外国人に対して生活上の不自由を軽減し隣人として寄り添うことであろう。日本語が読み書きできない場合にはそこから起こる事態の解決に行政と住民とが協力して対応することが必要であろう。

目標７のクリーンなエネルギーの提供については「みんなで、大津」では水素エネルギーの開発に特別な関心を持ち、水素社会実現のために情報収集をしている。エネルギー自給率の低い（2021 年度 13.4%）日本では、この度の国際紛争の影響を受けてエネルギーに由来する物価の高騰が国民の生活を苦しめている。水素は持続可能な資源であり、その利活用は地産地消かつ分散型なので水素社会の実現は地方ベースで可能である。地域のエネルギー自給率向上のために滋賀・大津においても前倒しで対応を進めてほしい。

国際評価で「課題が残る」のうち目標６の「安全な水とトイレ」の問題は日本では災害時などの非常の場合の他は幸いなことに日常的に気を留めることはほとんどない。滋賀・大津でもこの目標に対応する取り組みはほとんどない。ただし琵琶湖を抱く滋賀・大津では絶え間なく水質の保全などに注意が払われていることを忘れてはならない。

目標１の貧困の問題は、目標２の飢餓と同じように表面に現われることは少ないが、母子家庭や高齢者の独居など潜在的には課題が残っていることは事実である。

この問題は日本で広がりつつある格差の問題に直結しており、その是正にはたゆまぬ努力が払われなければならない。

目標の３は、憲法でも認められた基本的な人権に関するものであり、その実態から目を離すことは許されない。コロナの感染流行期には「いったい日本の医療はどうなっているのか」不安を感じた人も多かったに違いない。医療・介護は高齢化が進むと益々需要が高まる。ことに介護の人材不足は賃金の向上をはじめ解決を要する課題が多い。「みんなで、大津」では「介護のデジタル化」に注目して関連情報を収集・発信している。

さて目標１１の「住み続けられるまちづくりを」であるが、「みんなで、大津」に掲載した滋賀・大津での取り組みの中では一番多く、７０件を数えている。これはサイトの性格上当然といえることで、滋賀・大津での取り組みが行政発であれ市民活動であれ、いずれも自分たちの住んでいるまち（地域）をより暮らしやすくするための活動であるから関心が高いのは当然といえるだろう。しかし国全体でみ

た場合、過疎化の問題あり地方は必ずしも住みやすい状況にはなっていない。地方創生が叫ばれるゆえんである。

　目標４の教育は国際評価でも「達成済み」であり「みんなで、大津」においても取り組み数が二番目に多い。地域では生涯学習の企画も盛んである。しかし日本の教育に課題がないということではない。むしろ「課題が残っている」といえる。不登校児童は増え続け、家庭の事情から進学を断念するということもあるし、大学の改革も必要である。少子化の中で定員に満たない学部や大学もある。大学の在り方は早急に見直されるべきである。

また、目標１６が国際的に高い評価を受けていることは日本国内をみると「平和ぼけ」といわれるくらいの有難い状況であるが、将来にわたって安心ではない。敗戦体験を経た日本は平和を希求する「平和国家」であることを世界に認識してもらい、国際紛争の解決のため主導的な役割を果たしてほしいものである。しかし現実はそうなっていない。日本の現実は、国際評価におけるような「達成済み」とは逆の厳しい未来状況にあると思う。

最後に目標８と９である。いずれも経済に関する課題であるが、滋賀・大津ではいずれも取り組み数は中位である。これに対して国際評価では目標９は「達成済み」で、目標８の国際評価は上から二番目にランクされている。世界的にみて日本は経済大国という評価を得ているからであろう。しかし勤労者の多くが「働きがい」を感じていると言い切れるであろうか。例えば日本の実質賃金は長年にわたって上昇していない。また最近ではジョブ型の職務への移行が奨励されているきらいがある。しかしこのことは本当に日本の経済成長と勤労者の働きがいの向上につながるのだろうか、いたずらに労働市場の混乱を招くだけではないか、慎重な検討が必要である。

また目標の９は「達成済み」となっているが、果たしてそう言い切れるか、おおいに疑問のあるところである。SDGs の構造は社会・環境・経済の３つがバランスをとりながら発展していくのがよい、とされている。そのとおりであるが、ことに経済の安定的な発展は欠かせない。その意味から目標８、９について地域振興のためにももう一度観察し直してみることが必要と思われるが、いかがであろうか。

【Ⅳ】「みんなで、大津」から見た地域における目標達成度評価の試み

最後に滋賀・大津における目標達成度を国際評価に準じて考えてみよう。

ただ、母集団が少ないこと、地域だけでは解決できない国全体の課題があることを考慮するとこの試みは十分とは言い難いが、２０３０年を最終のゴールとするとき２０

２３年はちょうど中間時点（国連で SDGs がスタートしたのは２０１５年）なので、現時点における中間評価の試みと受け取っていただきたいと思う。異なった見解もあると思われるので、ご叱正いただけると有難い。
（註：目標の記述について世界中とか外国を含む国とかは、地域全体と読み替える）

「改善の余地なしとは言えないが、達成していると考える目標」
　目標 6「安全な水とトイレを世界中に」
　目標 2「飢餓をゼロに」
　目標 11「住み続けられるまちづくりを」
「更に改善を進めることで達成できると考える目標」
　目標 1「貧困をなくそう」
　目標 4「質の高い教育をみんなに」
　目標 10「人や国の不平等をなくそう」
　目標 13「気候変動に具体的な対策を」
　目標 14「海の豊かさを守ろう」
　目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」
「改善の余地が多く重要な課題を残していると考える目標」
　目標 3「すべての人に健康と福祉を」
　目標 5「ジェンダー平等を実現しよう」
　目標 8「働きがいも経済成長も」
　目標 9「産業と技術革新の基盤をつくろう」
　目標 12「つくる責任つかう責任」
　目標 15「陸の豊かさも守ろう」
「深刻な課題を残していると考える目標」
　目標 7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」
　目標 16「平和と公正をすべての人に」
　最後の２つの目標については補足が必要と考えますので説明します。
　目標 7 について、日常生活においてエネルギーが不足するということはないのですが、使っているエネルギーはクリーンと言えません。脱炭素は計画を立てて進行していますがクリーンでない（ごみを残す）脱炭素は目標 7 に反すると考えます。
　目標 16 については、平和を守り続けるという意思が薄れつつあると懸念します。現在平穏を保っているということと将来の平和を守ることとは別です。また格差が広がりつつある現在において公正が保たれる保証はありません。公正について考える取り組みが更に必要ですが、これは地域だけでは解決困難と思われます。